

グリーンビル研究会 足立区へ廃校活用のプレゼンテーション

- ・2012年3月16日に足立区の方々に対して、足立区新田小学校跡地の活用案についてプレゼンテーションを行いました。
- ・足立区側には、新田小学校をはじめ、区内に複数ある廃校の今後の跡地活用についての問題意識があり、プレゼンテーション後に活発な意見交換が行われました。
- ・足立区側からは、資産活用課やまちづくり課など7名が参加し、以下のような意見をいただきました。

「今回の提案のような観光資源が足立区内にできてほしい。」
 「土手や荒川の自然環境等、ポテンシャルはある場所。環状7号線が近くにあり、対岸から環状7号線を渡ってきたときにどのような施設があるべきか考える必要がある。」
 「今回の発表のアイデアを参考に活用方法を考えていきたい。」
 「スポーツをやる人のためのライフワークの提案としておもしろいと思う。」
 「建築だけでなく、子供の視点があったことはいいと思った。」
 (以上、資産活用課)

「足立区はマイナスのイメージが強いため、このような売りとなる場所は必要である。」
 「小学校跡地は新田地区の中央にあり、また新住民区域と旧住民区域のつながりがうまくいっていない現状があるので、そのつなぎの役割ができればいい。」
 (以上、まちづくり課)



プレゼンテーションの様子

ライフスタイルデザイン研究所の活動報告

—小田原研究会—

- ・今年度は、小田原市を対象に歴史的都市における公共建築のあり方についての検討を東海大学杉本研究室と連携して行っていきます。
- ・5月29日（火）に第1回の研究会が開催されて以降、第3回まで開催しております。現在は主に現地調査や国内類似事例調査を行っています。

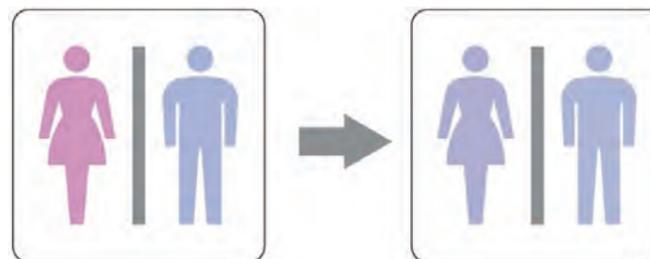


小田原研究会の様子

—カラーユニバーサルデザイン研究会—

- ・人が外界から得る情報の約9割は視覚によるものであり、建築やまちづくりにおいて色彩の計画はきわめて重要です。
- ・公共建築等のビジュアルサインには「誰にでもわかりやすい」という機能が必須ですが、高齢者や色覚障がい者（注1）にまで配慮された明確な基準はなく、各自治体でも積極的なガイドラインは見当たりません。
- ・ビジュアルサインのみならず建物の注意喚起を促す箇所の色彩や配色の要素、日常の業務で作成する提案書や計画図書の色彩計画について、機能美とデザイン性を併せ持つ当社独自のガイドラインを作成しこれを活用し社会貢献する目的で、2012年に「カラーユニバーサルデザイン研究会」を立ち上げました。

(注1)色覚障がい者はX染色体に障がいがあり、アジア人の男性で20人に1人、女性で500人に1人の割合でいると言われています。



健常者の見え方

色覚障がい者の見え方

Illustrator CS5を使ったD型色覚シミュレーション

RESEARCH ACTIVITIES

Aug.2012

Vol.6

ライフスタイルデザイン研究所の活動状況

- ・当社では、社会状況の変化に対応したライフスタイルの変化が都市や建築をどのように変えていくのかについて、社内外の「知恵の連携と統合」を進めながら、多くの研究と提案を行っていきたくと考え、「ライフスタイルデザイン研究所」を設立しています。この度、2012年度の体制が決まりましたのでお知らせいたします。
- ・「シュリンキング・シティ研究会」は2009年より立ち上げておりますが、分科会として、株式会社グリーンワイズと連携して廃校利用についての提案を行う「廃校利用研究会」を引き続き行い、また一昨年度立ち上げた「小田原研究会」を小田原のまちづくりや景観づくりの研究・検討といったテーマで行ってまいります。
- ・さらに、一昨年度の小田原研究会の成果として得られたライフスタイルセンターの事業モデルの研究・検討を行う「ライフスタイルセンター事業モデル研究会」を設立します。小田原研究会と事業モデル研究会は東海大学杉本研究室と連携して行います。
- ・震災復興研究会は、昨年度の設計事務所5社による震災復興組織設計協議会における震災復興の検討結果をもとに、津波による防災まちづくりの計画モデルの作成を行う予定です。
- ・この他に当社独自のカラーユニバーサルデザインガイドラインの作成を行うカラーユニバーサルデザイン研究会を立ち上げています。

ライフスタイルデザイン研究所



株式会社 安井建築設計事務所

ライフスタイルデザイン研究所

